



遠山霜月祭

国指定重要無形民俗文化財

中郷編



【再生上のご注意】

- このディスクはコピー防止の処理がされています。プレイヤーからの映像ケーブルをビデオデッキなどを經由してテレビに接続すると、コピーガード信号の影響で画像が乱れることがありますので、DVDプレイヤーの映像出力から直接モニターに接続してください。
- パソコン搭載のDVD-ROMプレイヤーでの動作は保証しておりません。

【取り扱い上のご注意】

- ディスクは両面とも、指紋、汚れ、キズ等をつけないように取り扱って下さい。
 - ディスクが汚れた時は、柔らかい布を軽く水で濡らせ、内周から外周に向かって放射線状に軽く拭き取って下さい。
 - ひび割れや変形、または接着剤等で補修されたディスクは危険ですから絶対に使用しないで下さい。
- また、静電気防止剤やスプレー等の使用は、ひび割れの原因となることがあります。

【保管上のご注意】

- 使用後は必ずプレイヤーから取り出し、DVD専用のケースに収めて、直接日光の当たる所や高温多湿の場所は避けて保管して下さい。

【おことわり】

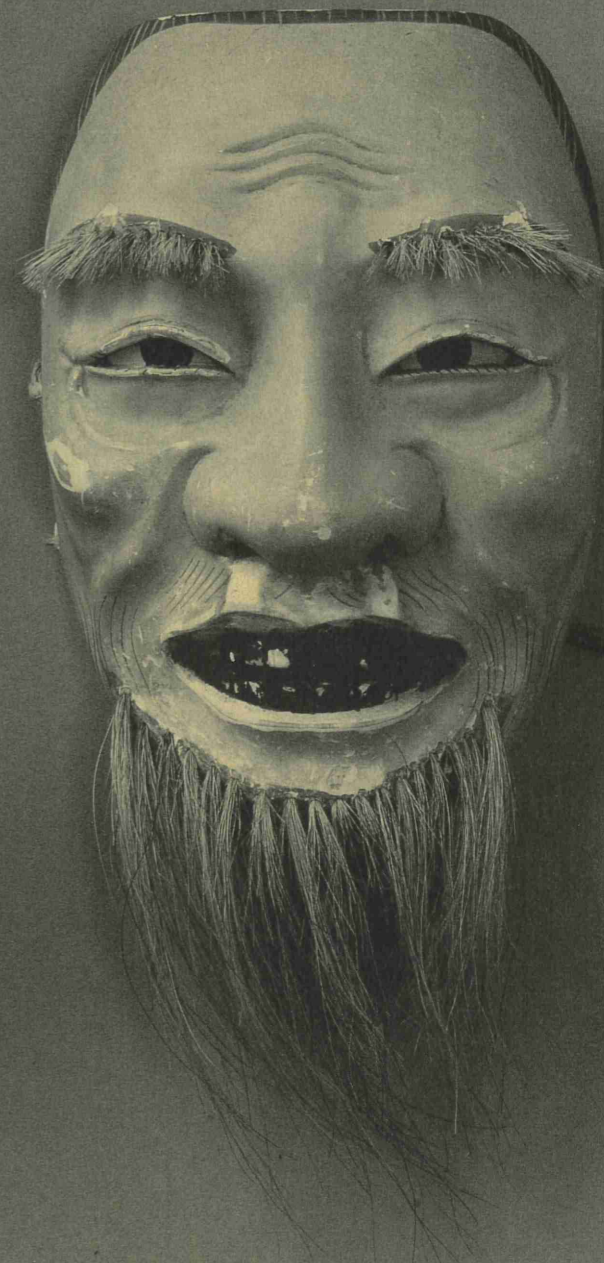
このディスクの映像・音声並びにパッケージに関するすべての権利は著作権者が有し、その使用は個人視聴及び家庭内での鑑賞に限られています。
 上映やVOD(ビデオ・オン・ダイヤモンド)で利用する場合は条件が異なりますので、事前に飯田市美術館までご連絡ください。
 無断でこれを複製、変更、上映、放送、配給、転送、レンタルすることは法律で固く禁じられています。

120分	片面2層 COLOR	DVD VIDEO	DD DOLBY DIGITAL	16:9 LB	ALL NTSC	レンタル禁止 複製禁止	¥9,800(税込) 個人視聴用
------	---------------	--------------	------------------------	------------	-------------	----------------	---------------------

- ◆中郷編の他に、上町／程野／下栗編があります。
- ◆4枚セット ●個人視聴用：定価 35,000円(税込) ●図書館使用：定価 150,000(税込)

【企画】飯田市・飯田市美術館・上村遠山霜月祭保存会 【協力】長野県・飯田市上村自治振興センター
 【撮影】TV-4 【制作】ヴィジュアルフォークロア 【撮影年】2005年 【制作年】2009年

発行・販売：飯田市美術館 〒395-0034 長野県飯田市追手町 2-655-7
 TEL 0265-22-8118 FAX 0265-22-5252 E-mail: human@ida-museum.org



一 プロローグ

【十二月二日（第一土曜日の前日）宵祭りの日】

二 竈塗かまぬり ● 切りはやし ● 祭具作り

三 宮神楽みやかぐら 願ばたきの受付

四 座揃ざぞろいの御神酒おみき ● 宵祭り

【十二月三日（第一土曜日）本祭りの日】

五 外の宮を祭る
● 釜清め ● 火入れ

六 大祭式

七 座揃ざぞろいの御神酒

八 立願帳奉読りようがんちよう

九 大宮祓しめい
● 七五三引き ● 末社祭

十 神名帳じんみょうちよう ● 申上

十一 釜祓かまばらい ● 湯殿渡し

十二 先湯せんゆ一

十三 先湯二・三

十四 初参り

十五 池大明神の湯立

● 子どもの舞 ● 神の子

十六 宮清め ● 湯の華

十七 宮神楽の願ばたき

十八 秋葉大神の湯立

鹿島大神の湯立ひちこく／七石の湯立

十九 御一門ごいちもんの御神酒

御一門の湯

二十 御倉開おくらき ● 上げ湯

二十一 四つ舞

二十二 櫻たすきの舞 ● 羽揃はぞろえの舞

二十三 寄り湯

二十四 鎮しずめの御神酒／鎮めの湯
● こりとり

二十五 日月にんげつの舞

御座ござの神

二十六 御面

二十七 金山かなやまの舞 ● 神返し ● 直会

二十八 スタッフ／クレジット

遠山霜月祭

中郷 編

桜井弘人 飯田市美術館学芸員

●日本最大の活断層である中央構造線によって、赤石山脈と伊那山脈との間に深く刻まれた遠山谷。この谷に国の重要無形民俗文化財に指定される「遠山の霜月祭」が伝承されている。現在の行政区でいえば長野県飯田市上村・南信濃、平成の大合併以前は下伊那郡上村・南信濃村であった。

●全国山村の例外にもれず少子高齢化による過疎に悩む地域であるが、この地は豊かな林産資源の宝庫として注目されてきた歴史をもつ。平安時代末期に荘園が開かれ、鎌倉時代には鎌倉八幡宮寺の信濃国唯一の神料地となった。南北朝時代には同じ中央構造線上の隣接地―大鹿村大河原に南朝方後醍醐天皇の第八皇子宗良親王が征夷大將軍として三十数年にわたって拠点を置いていた。山深い地に遠山の霜月祭りが伝承される理由は、そんな歴史的な背景があるのだろう。

●のちに豊臣秀吉が大坂城の木材を、徳川家康が江戸城天守閣の木材を遠山谷から産出している。元和四年（一六一八）にこの地を領有した遠山氏が改易となったのも、林産資源をねらう幕府の意図があったからだと考えられる。以後、幕府直轄領となり、木材で年貢を納める樽木成村（くれきなりむら）となった。

●遠山の霜月祭は、現在十二月中旬に十二か所の神社で開催されるが、本来その名のように旧暦霜月（十一月・神楽月）を祭り月とした。冬至における太陽の衰弱と再生になぞらえて、神も人も自然もすべての生命の「生まれ清まり」を願うのが、この祭りの本旨である。

●祭りは、神社の舞殿中央に設けた竈や五徳に据えた湯釜に一晚中湯を沸きたぎらせ、神楽歌や舞を伴う湯立てを繰り返し行う湯立神楽である。全国的にみれば湯立神楽は秋田県の保呂羽山（ほろはさん）の神楽、三浦半島一帯の鎌倉神楽、奥三河の花祭りなどがあるが、徹底して湯立てに固執するところに遠山の大きな特徴がある。同様な祭りは隣り天龍村の坂部（さかんべ）の冬祭り・向方（むかがた）のお潔め祭りや、近接する富山（とみやま）の御神楽（愛知県豊根村）など、三遠信国境の主に南信州側一帯に分布する。それらは華やかな舞を中心として発展した奥三河の花祭りに比べて地味ではあるが、あきらかに湯立神楽の古態を有する。その最たるものがこの祭りなのである。

●もう一つ、この祭りの特徴は、重病人や出征兵士などがその快復と無事を願って神々に誓約し、かなえられた場合に願果たしを行う重要な機会だったことである。この「立願（リュウガン・リツガン）」と「願ばたき」の習俗は戦後になって急激に廃れたが、それでもなお濃厚に形を留めている。ここに、霜月神楽の本質ともいえるべき深い信仰世界を伺い知ることができる。

●その他にも、重要な湯立てや行事に先だって饗食を繰り返すなど、細部にわたって神祀りの古い形を留めている。この祭りはじつにさまざまな示唆に富むといえよう。

●遠山谷十二か所の祭りの内容は、地区ごとに類似性を持ち、大きく次の四タイプ（系統）に分けられる。*日付は12月

上町タイプ：「上村」上町（11日）・中郷（12日↓第一土曜日）・程野（14日）

下栗タイプ：「上村」下栗（13日）

木沢タイプ：「南信濃」中立／八日市場（隔年交互 8日↓1日）・上島（第一土曜日）・

小道木（第一日曜日）・木沢（10日↓第二土曜日）

和田タイプ：「南信濃」和田（13日）・八重河内（15日）・大町（23日）

●以上の四タイプの中で、他と際違った違いを見せるのが和田タイプである。湯立ては一口の湯釜を用いた三立のみで、内容も他に比べて独特である。舞は太鼓と採り物の鈴で、湯釜の隅を立場として神事や舞を行う。

それに対して他の三タイプは、二口（木沢のみ三口）の湯釜の周りで湯立てが一〇立前後も嚴重にくり返され、舞にはさらに笛を伴い、神名帳奉読により全国一の宮を勧請するところに特徴がある。なかでも木沢・下栗タイプには神楽歌を奏する際に銅拍子が付くほか、湯立ての内容や面の構成など全般に共通性が認められて、古くは源を同じくしたものと考えられる。両者の違いは、木沢タイプが全般に簡素な印象を与えるのに対して、下栗は契印と呪文を数多く繰り返すなど呪術色が強いことである。

いっぽう上町タイプは、個々の行事内容が複雑にして濃厚である。面は江戸時代初期の改易まで遠山地方を領有した遠山氏一族の御霊を象つたといわれる「八社之神」があり、祭り全体に大きな陰を落としている。伝承では、百姓一揆によって遠山氏を滅ぼした祟りで疫病が流行ったため、その霊を慰める祭りを従来の祭りに加えたという。祟り鎮めに重点を置いて再構成された形を、上町タイプの祭りにみることができている。

一 はじめに （遠山谷）

二

遠山の 霜月祭の 特徴

三

四タイプの 祭り

四

霜月祭の 全体日程と 担い手

●遠山の霜月祭は、一日一夜の祭りと考えられがちである。しかし本来は、十二月一日の「朔日祭り(きしめ造り)」に始まり、前日(一日目)に「宮支度」と「宵祭り」、その夜「お籠もり」があり、本日(翌朝(二・三日目))に「水迎えなど」と「本祭り」、翌々日(四日目)が「算日(三日・宮勘定)」である。

●十二月一日には重要な神饌である「きしめ(甘酒)」を仕込む。前日は竈を築き直し、幣束などの紙飾りを切り、注連縄を緋い、祭具を整える。その夜の宵祭りでは祭具を清め、神々のやってくる道を清める。本日は湯立ての水迎え・釜洗いや湯の上飾りをして本祭りとなる。祭場を清め、「神名帳(神帳)」「申上」を奉読して全国一の宮の神々を迎えて祈願し、以後、湯立てを夜通しえんえんと繰り返す。湯立てと舞には恒例でおこなうべき「式札」に、「願(願ばたき)」の湯立てと舞が挿入される。夜明け近くに神社の祭神や地域の神々が面神となって登場したのちに神返しとなる。四日目は片付けと決算報告をして終わる。

●祭りは、和田地区を除いて集落あげて行われ、「禰宜」とよばれる民間宗教者が中心になって執行する。数々の祓詞・祝詞や呪文を唱え、契印して九字を切るなど、神仏混淆の両部神道を色濃く伝えている。

●本DVDは、二〇〇五(平成十七)年、上村霜月祭保存会が本格的な映像記録を残そうと、現場でのフラッシュを禁じて撮影したものである。中郷の日程は次のとおりであった。

竈塗り 十一月六日(*特別に行う。本来は宵祭りの日)

宵祭り 十二月二日(第一土曜日の前日)

本祭り 十二月三日(第一土曜日)から翌日朝

算日(片付け) 十二月四日午後

旧来十二月十二日を本祭りとしたが、この年から第一土曜日に変更した。また竈を二年ぶりに作り直すことになり、本来宵祭りの日の作業を一週間早めて行った。

●中郷の霜月祭は、中郷正八幡宮で行われる祭りである。以下、本映像の特に推奨できる見所を列記する。

〈神社の祭祀形態〉 神殿に十字の祠(オチョウヤ)が並び、屋外の五方には外宮をもつ。

この祭祀形態が献饌や湯立て・神事に色濃く反映する。正八幡社の祠から面箱を移す「お蔵開き」は中郷だけである。

〈宮神楽の願ばたき〉 久しぶりに御礼の「湯の華」があった。宵祭りの日に申し出で、本祭りの「願湯」で願帳を奉読し、二名が願主宅を湯で清め、家人のもてなしを受けた。

〈神の子〉 立願により一生涯の奉仕を誓った者がなかった際に神子入りする。中郷では伝承のため区長を代人にしている。現在、遠山霜月祭りでは唯一である。

〈湯立て〉 重要な湯立て「役湯」には、「先湯(湯開き)」「御一門の湯」「鎮めの湯」がある。それに先立って「御神酒」とよぶ饗食が行われる。

〈面〉 宝暦九年(一七五九)に飯田の仏師により制作された十四面ほか二面が登場する。宮天伯は特殊な足踏みとなる。

五

中郷の 霜月祭